

《 病院理念 》

- 1、私たちは「患者さん中心の医療」を実践します
- 1、私たちは患者さんの安心と信頼を得るように努力します
- 1、私たちは医療人としての誇りと自信を持って行動します

《 基本方針 》

① 高度・専門医療の提供

高度・専門医療を提供することで、幅広い診療圏を持ち、尾北医療圏の中核病院となる。

② 救命救急、災害医療

救命救急センター的機能を保有し、24時間救急に対応する。災害時には地域の拠点として災害医療を担う。

③ 江南市の市民病院的な役割を果たす

救急をはじめとする不採算医療を担うとともに、治療の院内完結率を向上させる。

④ 教育研修病院

臨床研修指定病院として、また、各種学会認定の研修施設として、広く医療従事者の資質向上に努める。

⑤ 地域連携への取り組みの強化

病・病連携、病・診連携の強化を図り、地域医療の後方支援に努めるとともに、研修、人的交流を通じて地域医療水準の向上を図る。

⑥ 予防医療の強化

健康管理センターを中心に疾病予防に力を入れ、疾病の早期発見、早期診断、早期治療に努める。



夜明けの江南厚生病院

診療日カレンダー

■ 休診日(第2・4・5土曜日は休診です) ● 午後休診 (2009年)

1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

年頭ごあいさつ

院長
加藤 幸男

新年明けましておめでとうございませう。
「江南厚生病院」は昨年5月1日に開院し、もうすぐ1年になるうとしています。

開院と同時に電子カルテを導入したため、病院内のすべての職員が不慣れなため皆様に御迷惑をおかけし申し訳ありません。

職員一同鋭意努力しておりますので温かく見守っていただきませう。また医師不足のため、いまだ二、三の診療科で常勤医師を確保できず開設できないでいます。これは私の責任ですが、何とか数年以内に「江南厚生病院」が本来持ちうる、持つべき機能をフルに発揮できるように全力を尽くしてまいりますので、このことも温かく見守っていただければと心よりお願い申し上げます。

その原因がいくつか指摘されています。

まず医師の地域による偏在が指摘されますが、本来にそうではないでしょうか。地方の病院は医師不足で都会の病院に医師が集中しているのとよく報道されます。人口の多い都会で病院に医師が多いのは当然で、問題はそれが過剰であるかどうかです。都会の病院がもし過剰に医師を雇用しているとしたら、現在の低医療費政策のもとでは病院は大赤字となり、経営を維持することは困難です。どの病院もその病院の診療機能を発揮するのに必要な医師を確保しようと努力しますが、それを超えて赤字覚悟で過剰に医師を雇用する病院はありません。言いかえれば、人口の多い都会の病院には医師が多いが決して過剰にいないわけではなく、単に地方の病院に比べると都会の病院の方が充足率が高いだけなのです。問題は絶対的医師不足、特に勤務医不足にあるのです。このことを無視して都会の病院から地方の病院へ医師の移動を権力でもって強制的に実行したら都会の病院の勤務医はますます過重労働となり、どんどん勤務医をやめて開業ラッシュがおき、都会も地方も病院の崩壊が生じる危険が極めて大きくなります。

次に診療科の医師の偏在が指摘されています。この点は私も

同感で、産婦人科、小児科だけでなく外科も内科も不足してきています。生命に直接関わる科よりはそうでない科を希望する若い医師が増えています。この原因はどこにあるのでしょうか。医学部を志望する動機に偏差値が高く合格できるからとか、社会的地位・収入が高いからと思う学生が大幅に増えたのでしょうか。ごく一部にはそのような学生がいることは認めますが、多くの医学生はこのような医師になりたい、医師になつてこのような仕事をしたいと希望に燃えて医学部に入学しています。そして臨床実習や卒後臨床研修で先輩達の私生活もないような過重労働の現実の現場を知り、又テレビや新聞等のマスコミの医療バッシングをみて志望科を変更していきます。そしてこの国は情報をマスコミにリークして医師を連行するのをテレビで放映させるような国です。産婦人科になったらこのようなことになるよ、だから産婦人科になるとなると警告するような国なのです。

このような状況で一生懸命がらばつても結果が悪ければ犯罪人として逮捕するような国でそれを覚悟して、かつ過重労働に耐え、なお生命に直接関わるような科をやれと誰が言えるのでしょうか。私は現在の志望科の偏在の責任の第一は医師に過重

労働を強い、かつ逮捕するような国、そしてその意をうけて医療バッシングを続けてきたマスコミにあると信じています。

次に病院勤務医の負担を軽減するために、病院は入院医療に特化して外来制限をして外来患者は診療所に誘導しようという意見があります。一見筋の通ったよい意見のように思われますが、もし実際にそうなつたら診療所で治療する外来患者が急増します。それだけの需要があるのなら、病院勤務医の開業ラッシュが生じ、やはり病院勤務医の大幅な減少を招き病院の崩壊を招くでしょう。

又、やっと今年から医学部の定員が少し増えますが、当然すぐには効果はありませんし、もし大幅な増員をすれば、医学部に教育や臨床実習を指導する医師が必要となり、市中の病院から大学病院へ医師の引き揚げが再び生じる危険もあります。

このような現状を打破し、国民が安心して医療を受けることができるような方策を残念ながら私は考えることができません。この先、国民の受ける医療が年々悲惨な状態になってくるなかで、私でできることは、この尾北の地の医療を最後まで守り抜くことだけです。

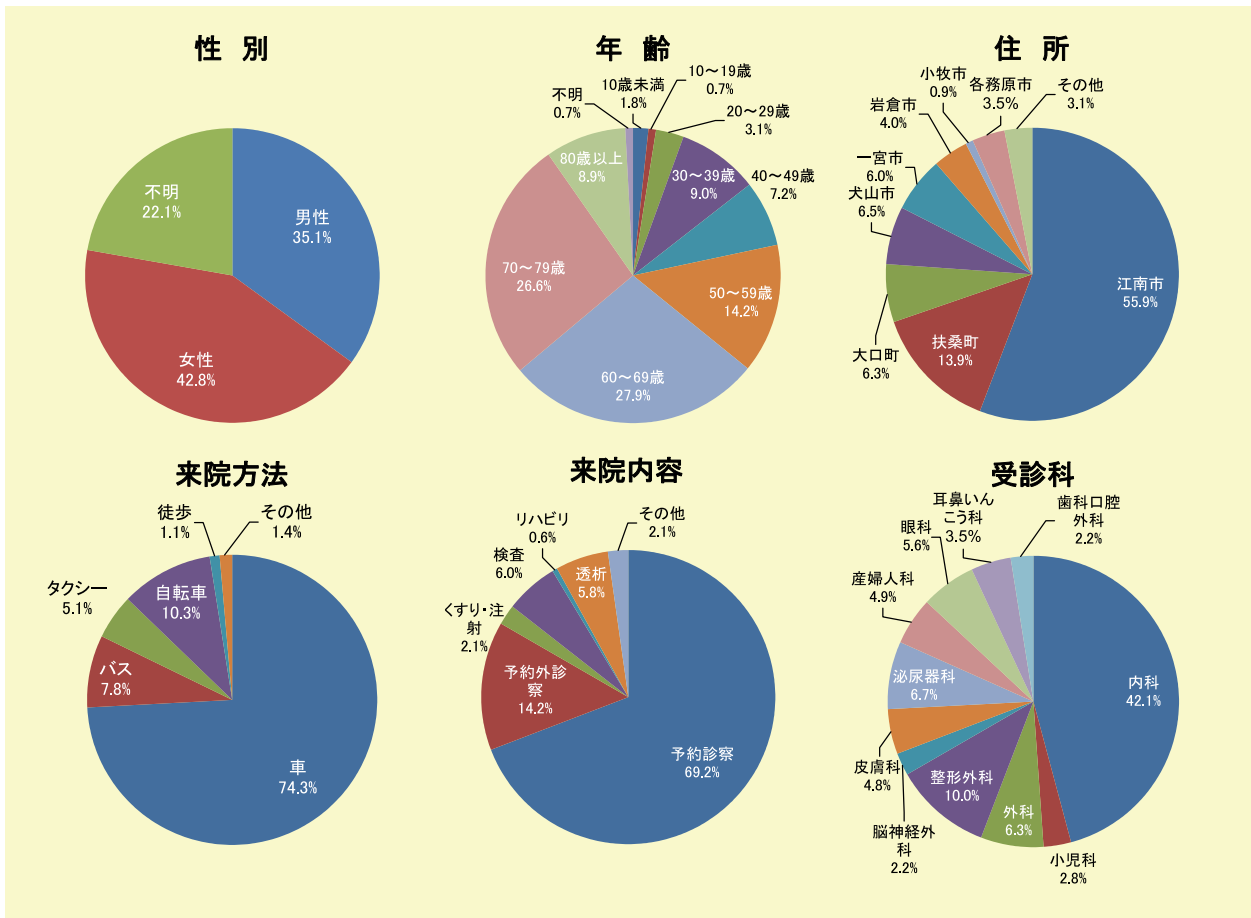
どうか地域住民の皆様の温かい御支援をお願い申し上げます。

患者アンケート集計結果

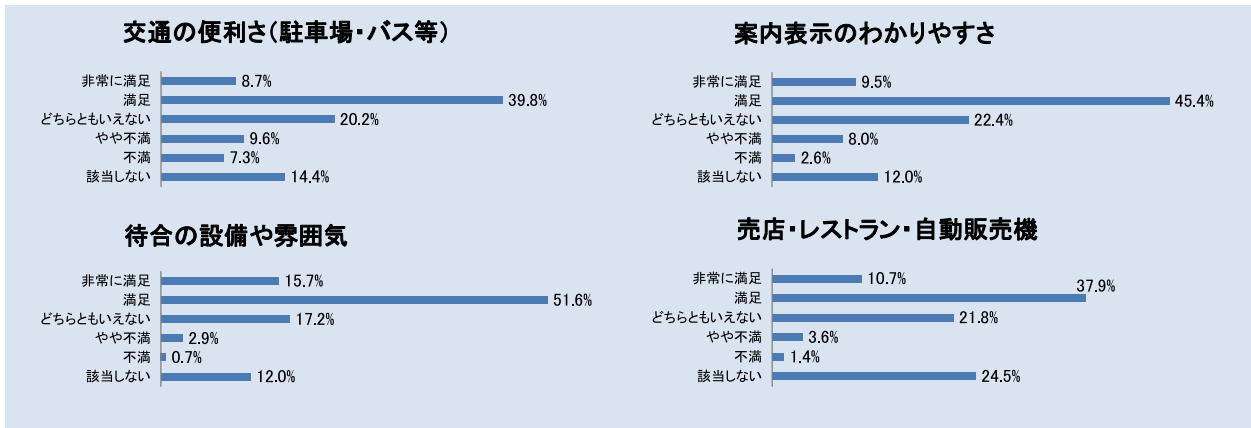
平成20年11月26日、27日の2日間、病院を利用される方々を対象にアンケート調査を実施いたしました。外来が1,072件、入院が328件もの回答をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。つきましては、今回の集計結果ならびに貴重なご意見を真摯に受け止め、より良い病院運営とサービス向上に生かしていきたいと考えております。ご協力ありがとうございました。

患者サービス向上委員会

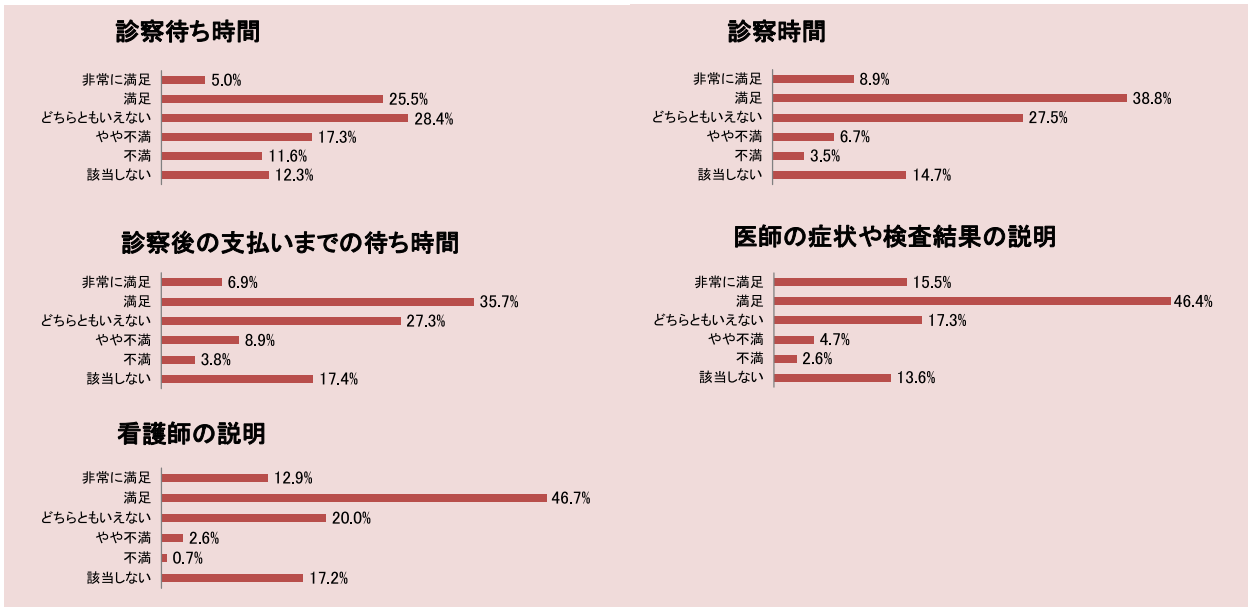
外 来



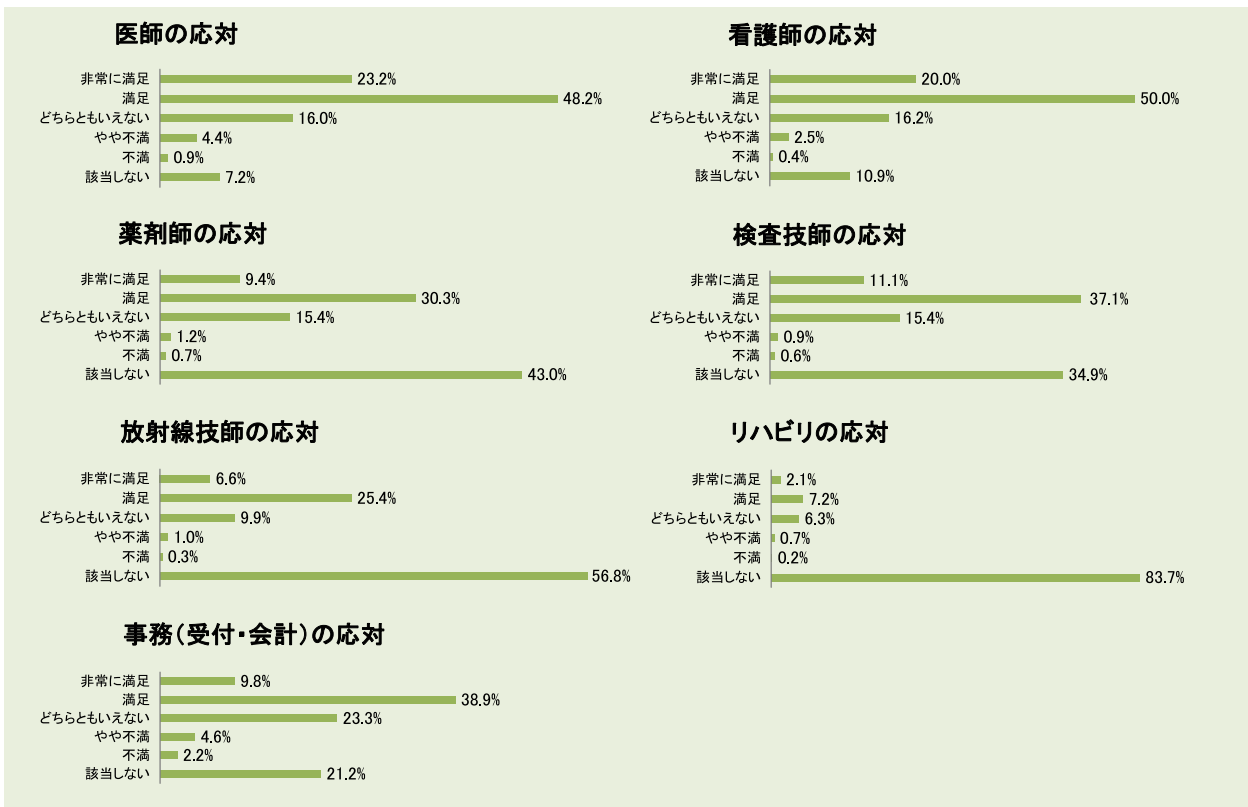
●施設について



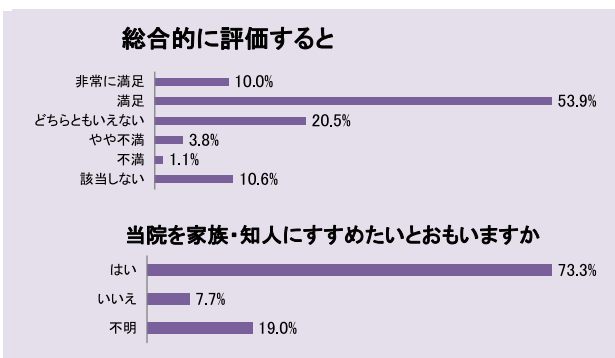
● 診療サービスについて



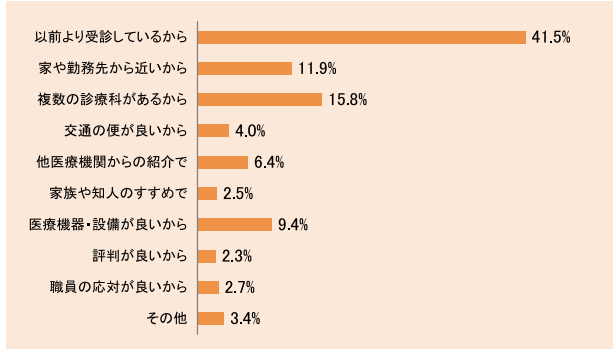
● 接遇について



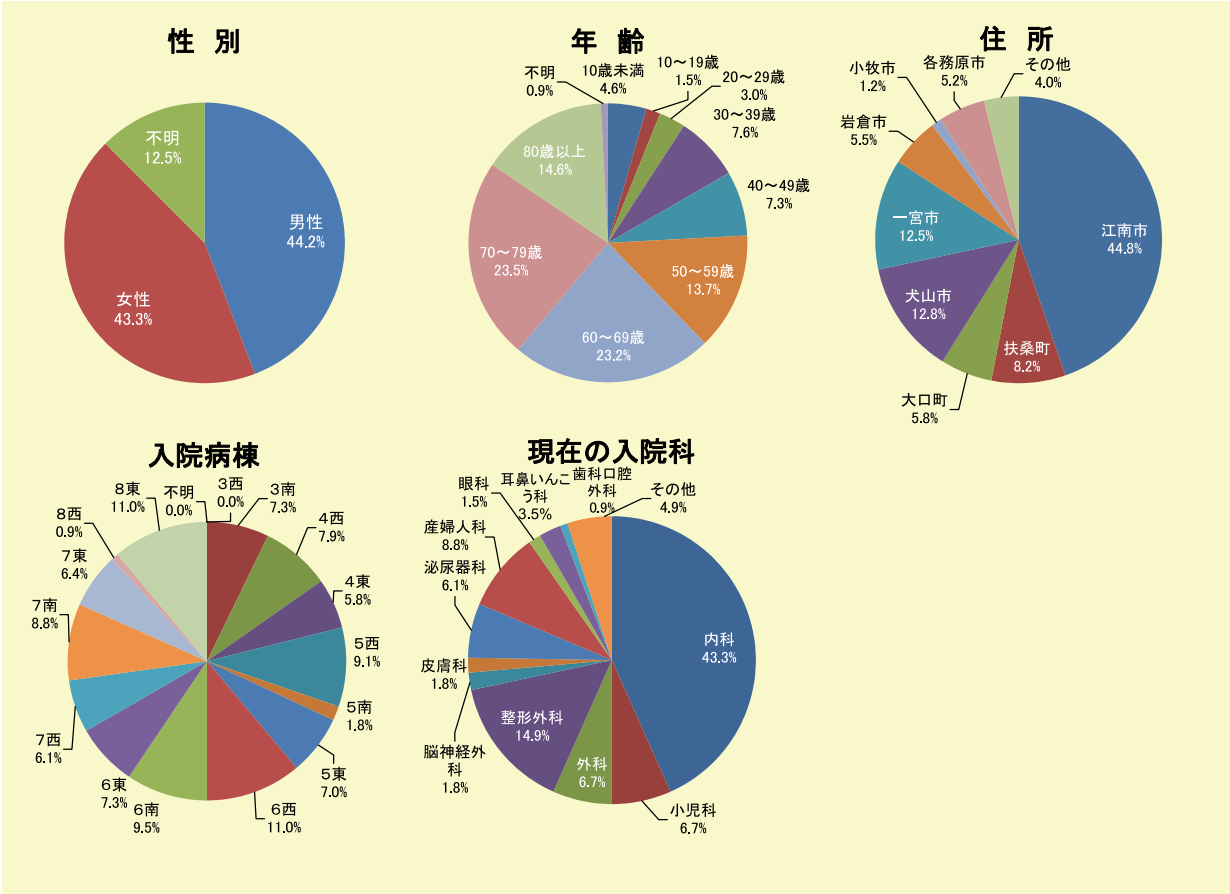
● 病院全体



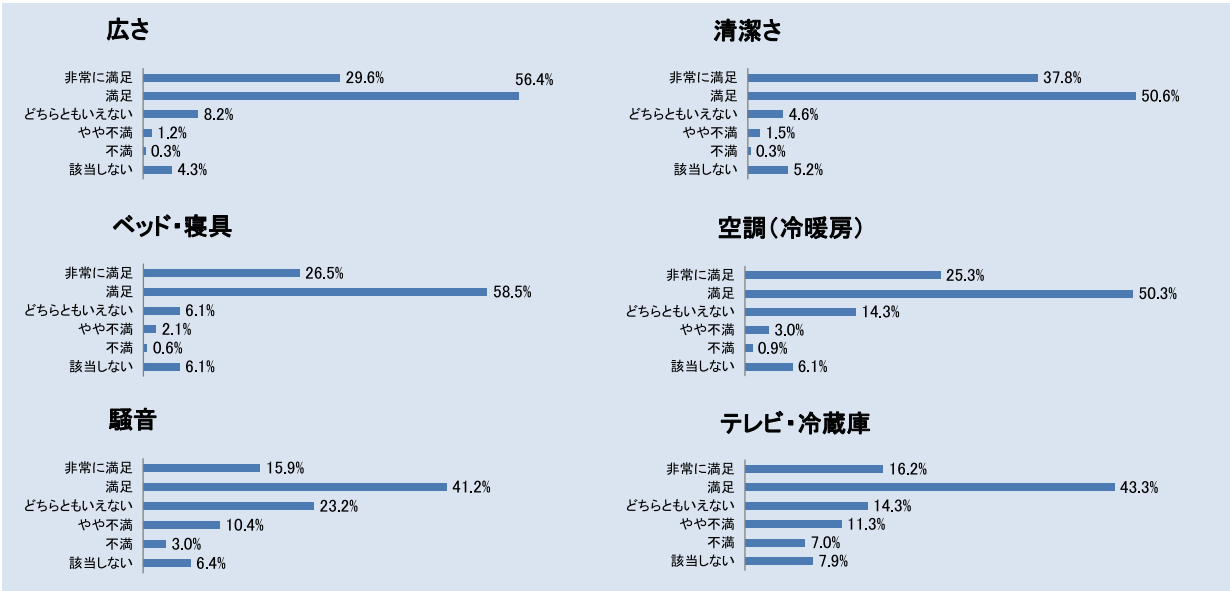
● 当院をお選びになった理由



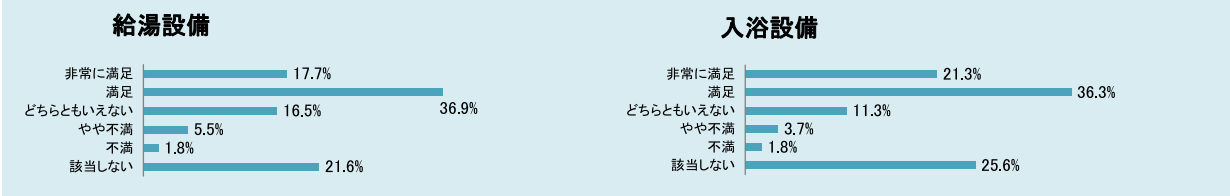
入院

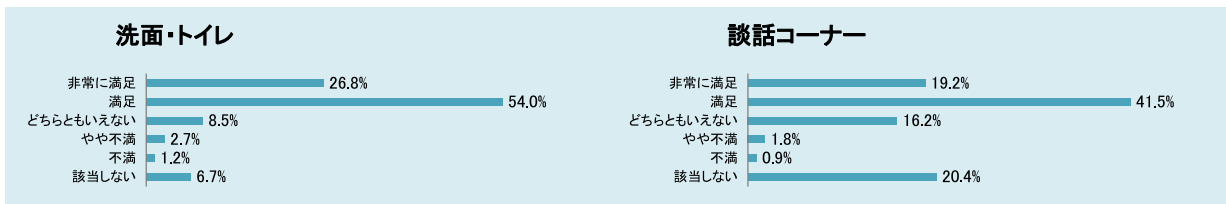


●病室について

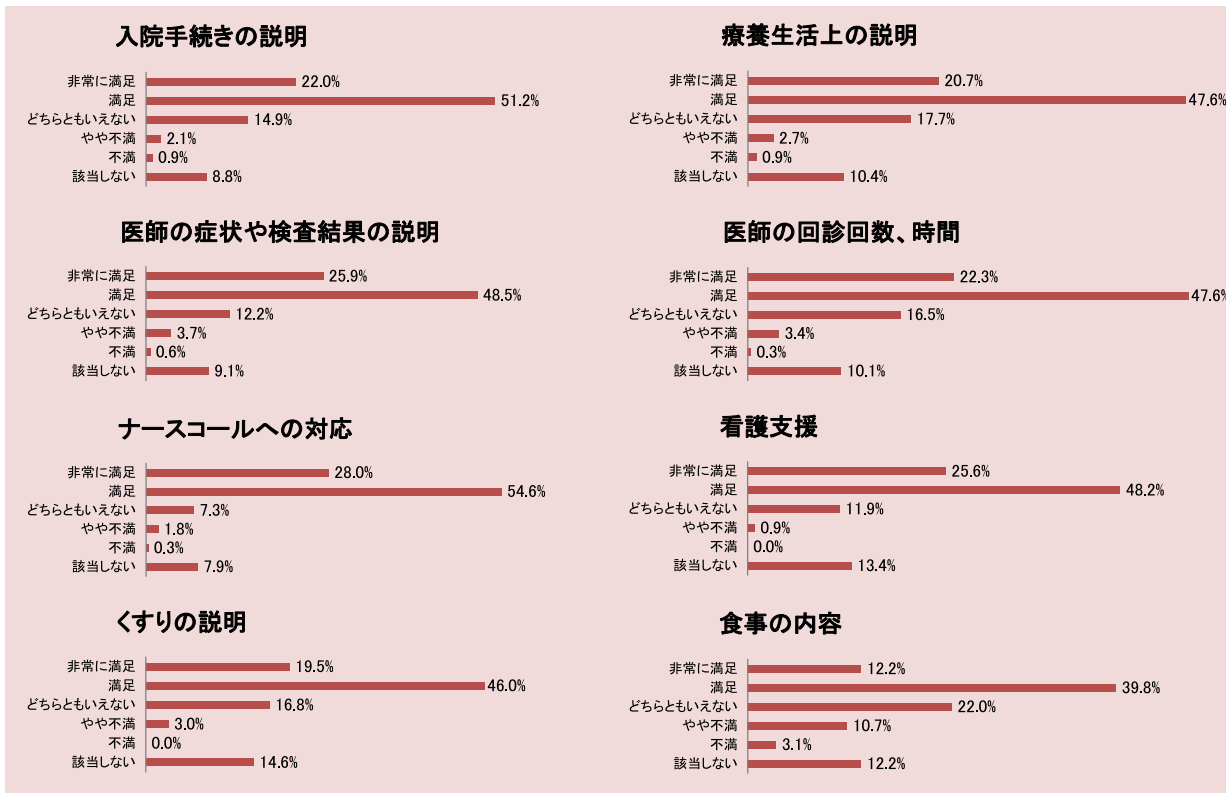


●施設・設備について

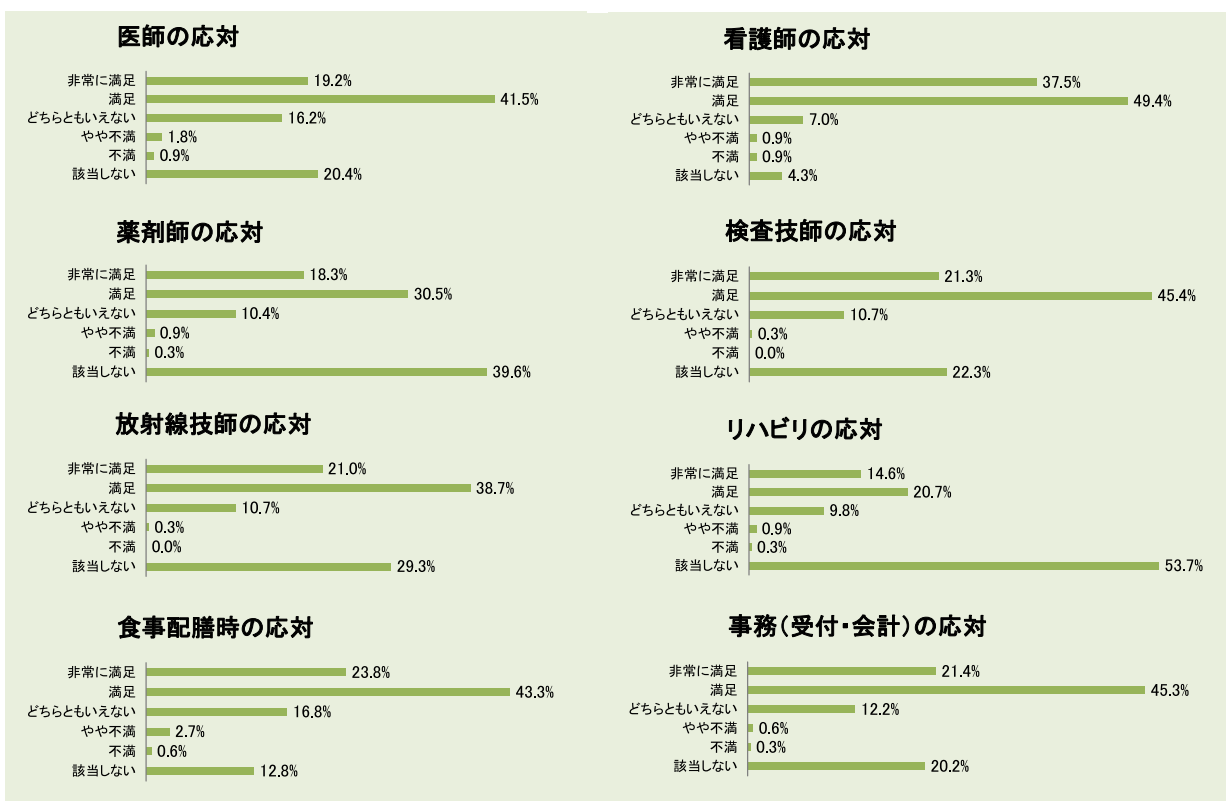




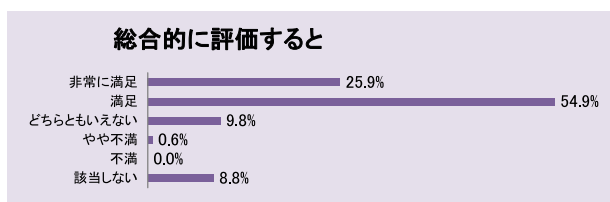
●診療サービスについて



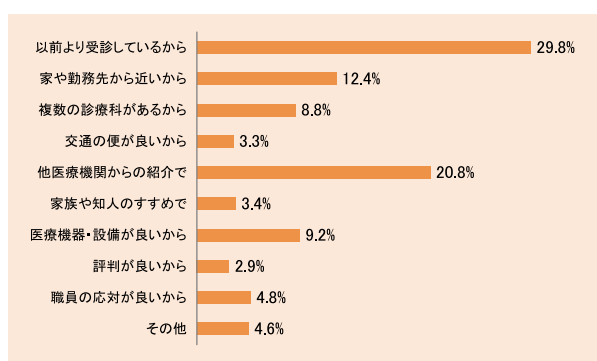
●接遇について



●病院全体



●当院をお選びになった理由



多数寄せられた貴重なご意見の中から、多かった質問について回答させていただきます。

Q1. 車いす対応駐車場が少ない上、車いす以外の方のの駐車が見受けられますが、何か対応はできないのですか

- A 現在車いす対応駐車場は21台分あり、車いすおよび症状により歩行が困難な患者さんが利用しやすいよう広く設置してあります。一部それ以外の方で、車いすマークの意味を認識していない、あるいは知っていても空いているから駐車しているという方がみえます。病院としては確認は困難なため、ご利用される方のモラルにお任せしております。本当に必要としている人がいつでも利用していただけるようご協力をお願いいたします。

Q2. 駐車場が利用しにくいのですが、パーの必要性はあるのですか

- A 不法駐車をなくし外来患者さんがいつでも駐車できるよう、駐車場の管制システムを導入しました。入出庫時にはお手数をおかけしますがご協力をお願いいたします。

Q3. 診察の流れや院内の場所がわかりにくいのですが

- A 再来受付機、総合案内、総合相談に係の者がおりますのでお気軽にお尋ねください。

Q4. 診察の待ち時間が長すぎると思います

- A 予約外診察の場合は科によって、また診察状況によって待ち時間が長くなる場合があります。また予約診察の場合も治療内容や急患により遅れる場合がありますのでご了承ください。また困っておられる患者さんにはできるだけ声掛けをさせていただいておりますが、ご気分が悪くなられた場合はご遠慮なくお近くのスタッフにお申し出ください。

Q5. 医療費の支払いはクレジットカードではできないのですか

- A 現在はクレジットカードによるお支払いはできませんが、将来的に対応できるよう検討しています。

Q6. 郵便局・都市銀行のキャッシュコーナー(ATM)はありませんか

- A 2階売店(ハートフルスクエア内)にございますのでご利用ください。
平日 7:30~20:00 土・日・祝日 8:30~19:00

Q7. 精神科はいつになったらできるのですか

- A 新聞・テレビなどで報道され、すでにご承知のことと思いますが、医師不足は当院でも少なからず影響を受けています。精神科医師につきましても大学の医局にはたらきかけその確保に努力を続けております。ご不便をおかけしておりますが事情を察していただき、なにとぞご理解とご協力をお願いいたします。

Q8. タバコの吸える場所はありませんか

- A 喫煙は、がん以外にも循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、歯周病、胎児の成長障害、さまざまな健康障害の原因になっています。また、受動喫煙も健康障害を引き起こすことが科学的根拠をもって示されています。病院には健康を促進する使命があり、健康障害の原因になっている喫煙を推進することとなる喫煙場所を提供することは、本来の使命に反します。そのため敷地内全面禁煙となっておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

Q9. バスの本数を増やして下さい

- A 公共交通機関の整備は市町村などの自治体が行うことになっています。現在名鉄バスが運行していますが、患者さんはもとより多くの地域住民の方が利用されることによっては、増便も考えていただけるのではないのでしょうか。

Q10. テレビカードの時間が、以前に比べ短いように感じますが

- A テレビの視聴時間は¥100/時間となっており、1枚のカードで10時間視聴できます。20インチ電動液晶テレビへの変更ならびに地上デジタル放送への対応により、金額については愛北、昭和病院でご利用していただいていた時より若干の値上げがされておりますが、冷蔵庫については変更はなく、床頭台に足元灯が付くなど改良もなされています。

Q11. 付添食はないのですか

- A 現在当院では付添食は患者食との兼ね合いなどの事情により対応が困難になっております。申し訳ありませんが付添いの方のお食事は売店またはレストランをご利用ください。部屋を離れる際、ご心配な方はお気軽にスタッフステーションにお声掛けください。

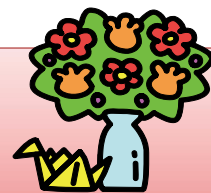
Q12. 付添者の入浴またはシャワー設備はないのですか

- A 付添者専用入浴、シャワー設備はございません。病棟の浴室については入院患者さんが使用するため、感染予防および設備管理上、他の方の入浴はできませんのでご了承ください。

Q13. 病棟には階段がないのですか

- A 病棟には非常用階段はありますが、当院をご利用される方は危険防止のためエレベータをご利用ください。

ご意見、ご要望等がございましたら、1階総合相談窓口、2階医療福祉相談室、受付等スタッフに遠慮なくお申し出ください。なお、ご意見箱を1階ホール、2階患者図書室、病棟各フロアに設置してございますのでご利用ください。



口腔癌の超選択的動注化学放射線併用療法について



歯科口腔外科部長 安井昭夫

口腔癌は組織学的にはそのほとんどが扁平上皮癌であり、場所によって舌癌・歯肉癌・口底癌・頬粘膜癌・口唇癌など呼び名が変わります。なかでも舌癌は口腔癌の約50〜60%と最も多いとされ、早期の舌癌で十分な安全域で切除しても頸部リンパ節に転移する症例が少なくありません。その理由として歯肉癌の場合には浸潤・転移に対して顎骨という硬組織がバリアーとなりますが、舌癌においては腫瘍直下に脈管系（リンパ管や動静脈血管）が3次的に網目状となつているため浸潤・転移しやすい傾向にあるからです。口腔癌の治療は一般的に外科的切除が第1選択になつているのが現状ですが、高度進行癌では手術によって発声・構音・咀嚼・嚥下などの機能障害や顔貌の変形による審美的障害による患者さんのQOL（生活の質）の低下は仕方がないという考え方が根強

くあつたことも否定できません。口腔癌（高度進行癌）に直面した患者さんの立場を考えると、顔貌の変形や機能障害を伴う手術を受け入れることは社会復帰への大きなハンデキャップとなるため、苦渋の選択に迫られてしまいます。近年では顎顔面領域の機能、形態を温存できる臨床研究（いわゆる高度先進医療）が進められ、患者満足度の高い医療が求められる時代となつてきています。江南厚生病院では口腔癌の患者さんに対して血管造影室・放射線治療室・手術室・病棟スタッフとチーム医療を編成して浅側頭動脈経由カテーテル留置による超選択的動注化学放射線併用療法を取り入れています。この治療は顎顔面領域の機能（発声・構音・咀嚼・嚥下など）・形態を温存しつつ治療成績の向上を図るため、血管カテーテルを用いた動注化学療法と放射線



治療との併用療法で舌動脈・顔面動脈・顎動脈などの外頸動脈支配の腫瘍栄養血管である口腔癌（舌癌・歯肉癌・口底癌・頬粘膜癌・口唇癌）が適応症例となります。治療の対象として高度進行癌で手術不能な方、糖尿病・心疾患・高齢などの理由で大きな手術ができない方、放射線治療単独では効果が十分でないと思われ、手術を拒否された方などに対して治療を行っています。この治療法は耳の少し前方にある浅側頭動脈と呼ばれる血管からカテーテルという細い管を腫瘍に栄養を送っている血管まで進めて留置し、連日抗癌剤を流す治療と同時に放



射線治療も行う方法です。腫瘍の栄養動脈に抗癌剤を直接投与することにより腫瘍内の抗癌剤濃度が高くなり、さらに放射線治療に対して抗癌剤が増感作用を発揮するため、腫瘍の完全消失率が90%以上と高い抗癌効果を得られます。そして腫瘍の消失が認められた場合は原発巣の手術を回避し、顎顔面領域の機能・形態を温存する治療方針を理念としています。新しい治療法で日々研鑽を積み重ねていくところですが、口腔癌（舌癌・歯肉癌・口底癌・頬粘膜癌・口唇癌）といわれたら、とにかく歯科口腔外科にご相談をいただきたいと思えます。

「去年ももらったカゼグスリ のんでもいいですか？」



主任薬剤師 岩本 郁夫

「以前にももらったクスリをのんでいいですか？」という問い合わせをいただくことがときどきあります。特にこの時期、「去年ももらったカゼグスリのんでもいいですか？」というような質問です。電話などでクスリを目の前に確認できないような場合は特に返答に迷うところですが、そこはまず。

多くの医薬品の成分は化学物質を主体としているため適切な条件のもとにおかれても時間とともに温度、湿度、光などの環境の影響を受けやすく、場合によっては治療、診断、予防が目的である医薬品としての確実性・安全性が損なわれてしまうおそれがあります。この性質上からも、医薬品に効果を保証する有効期間・使用期限が設けられていることは大きな意味を成しています。ただ、この期間も未開封の状態をさしており、いったん開封されると無効ということになります。とは言え、封を開

けてしばらくしたらもう使えないのか・・・日本薬剤師会が示した目安として、錠剤・カプセルなど有効期間内で適切に保存されて半年～1年程を期限と考えるべきとされています。あくまでも目安です、これ以上は不確実な要素も加わりお答えできないのが正直なところです。

一方で、ご質問のような医師の処方箋により調剤されたクスリの場合は、診察のうえでそのときの症状にあわせて処方されています。処方日数が過ぎれば期限切れと考えるべきです。これはクスリの安定性の問題ではなく病態がそのときと同じという保証がないからです。よって、医師より処方されたのみ残しのクスリをのむことはお奨めしません。ただ、常備薬として処方される場合もあります。ご不明なところは、薬剤師までご相談ください。

緩和ケア病棟とは・・・



緩和ケア病棟師長 今枝 加与

国は、平成19年4月に「がん基本対策法」を施行し、がん対策をより一層推進していくこととしていきます。その中ではがんの治療のみならず、がん患者およびその家族の苦痛の軽減ならびに療養生活の質の維持向上をしていくことを重要課題としています。

緩和ケアとは、がんに伴う体と心の不調・つらさ、生きることとのつらさ・苦しみを和らげ、がんと付き合いつつながら生活することを支援する医療です。患者さんだけでなくご家族もケアの対象です。

緩和ケア病棟とは、一般病棟が積極的な治療を行う場所とするならば、穏やかに生活する場となることを目指しています。入院による生活の制限、たとえば食事や面会、入浴などできる限り患者さんのご意向に沿うようにさせていただいています。また、季節ごとに催し物を企画し、入院中であっても季節の移り変わりを感じ、生活の変化を楽しめるようにしています。病

棟内にあるラウンジにはミニキッチンも備え付けられ、ご家庭の味を提供していただくことも可能です。また、屋上庭園では8階からの雄大な眺めを楽しむことができ、ベッドから離れることが困難な患者さんでも、日光浴を楽しみ心地よい風に当たることもできます。患者さん一人一人の生活を考え、病室は全個室となっております。一部シャワーユニットの設置（有料）もあります。

入院の対象となる方は、症状による苦痛のある方・心の悩みをお持ちの方で、緩和ケア病棟を理解され入院を希望される方です。緩和ケア外来に受診していただき、お話を伺った後、入院のうけ入れを検討し順次受け入れしています。

がんによるつらさをお持ちの方はぜひ緩和ケアについて知ってください。そして緩和ケアを受けたいと、主治医の先生に相談してください。緩和ケアはどの段階からでも受けられます。

江南厚生病院ボランティア 「いちごの会」の5年間でのおもいう事



垣内悦子

平成15年4月に昭和病院で、4名のボランティアで開始し、私はその年の11月に入会しました。確か当時会員は8名位になっていたと思います。玄関での挨拶「おはようございます」「おだいじに」等の言葉に慣れるのに苦労しました。

又車椅子の介助もうまくできなくて、患者さんに謝ってばかりでした。ボランティアに慣れていない患者さんも多く挨拶しても知らん顔や、げんごんな様子で通り過ぎる人も多かったように思います。

でも仲間が励まし合っていて、「笑顔をとやさないようにしましょう」「明るくハキハキした態度で接しよう」と等と声を掛け合っていていたら、次第に患者さんの方から声を掛けてくださったり、感謝の言葉を聞いた時は「ヤッター」と皆で喜び合いました。

その中で私が嬉しく覚えている言葉は、「おはようございます」と声掛けしたら、「まあ、病院へ来てこんな明るく迎えてもらえるなんて」と喜ばれた事。又花壇の手入れをしていると、通りがかった人が「ちゃんとしてると、通りがかった人からこんな綺麗に咲いているんですね」と褒められた事、他にも玄関前でタバコを吸っていた怖そうなお兄さんに、ピクピクしながら「喫煙所はあちらですが」と言うとうんわかった」と素直に聞いてもらえた事等印象に残っています。又病院職員の方達も次第に私達ボランティアを理解してくださるようになっていき、私達の意見を受入れて

下さった時は喜びを感じました。中でも、看護師さん達に感謝の書きを頂いた事も嬉しく、大きな励みになりました。失敗も色々ありましたが、不思議と嬉しかった事ばかり覚えていきます。

新病院になってからも、開院当初は来院される方に再来機の使い方、院内の案内等忙しく毎日仕事でしたが、患者さんからも病院側からも感謝され、我々仲間は活き活きと、テキパキとやりがいを持って活動しました。

今ちよつと落ちついて思い起こしますと、よくやってきたなー、これも仲間と力を合わせ、皆同じ思い、「病院を盛り立てよう」、「具合の悪い患者さんの苦痛を少しでも和らげ、気分を明るくしてもらえたら」と願ってやってきた事、そして何よりもボランティアとしての信念と誇りを持ってやってきたからここまでこれたんだと思います。

現在登録者数30余名となり、更に毎月1、2名の方のボランティア希望者を受入れていきます。又活動範囲も忘れ物の傘の整理、車椅子の掃除、更には図書室の手伝い等拡がりつつあります。

最後に仲間の言った言葉。「ボランティアは自分の為にとやっている。こんなことをやる機会を与えてくれた病院に感謝するわ。」と。これはボランティア仲間皆同じ気持ちだと思っています。元気でいる限り、後何年できるかわかりませんが、無理しないで自分なりのボランティアをやりたいと思います。

びりとブッチェイのつらんニつらんママー 長期入院の子どもの心を癒す芸術との出会い 事業行われる!!



11月22日(土)5階「こども医療センター」の多目的室に2人のクラウン(道化師、ピエロ)がやってきました!病気で入院・療養・通院されているお子さん方に笑顔と感動、そして楽しいコミュニケーションのひとつが生まれることを願い、厚生労働省が今年度は全国8カ所に補助金を出してくれた事業です。8カ所の1つに選ばれたことにまずは感謝し、この貴重な機会も実施されました。入院中の子どもたちと外来の子どもたちとそご家族、医療従事者で総勢40名ほどの人が、このすばらしい

ステージを見ることができました。びりとブッチェイは音と身振り華麗にみんなの「笑い」を独占しました。子どもたちの「かけ声」にしっかりと応えたステージの演出は、子どもたちの心をつちつかみました。また、子ども以上に大人たちが大笑いしていたのも印象的です。ステージの最後には、その手から巧みに生み出されるバルーンに子どもたちは目を輝かせ、ひとりひとりリクエストに応えたプレゼントをもらいました。また、病気のために病室の外に出られなかった子どもたちの病室にも訪問してくださいました。この日、この時をともに過ごしたみんなは、しっかりと笑顔と感動のおみやげを心の中にしまえたのではなうか。



お知らせ

■患者図書室の使用について
 病院2階の患者図書室にて、医学情報や健康、介護、福祉に関する書籍の閲覧を開始しました。今後種類など徐々に増やしていく予定です。是非ご利用ください。

ニュース

■県営名古屋空港消防救難総合訓練

11月6日(木)に県営名古屋空港で訓練が実施され、当院も愛知県防災航空隊ヘリコプターによる負傷者搬送訓練ヘリポートの利用及び離着陸に協力しました。



■第37回江南市農業まつり

「骨密度測定などに長蛇の列」
 「第37回農業まつり」が、11月8日(土)、9日(日)の二日間にわたって「すいとぴあ江南」にて開催されました。今年は、江南厚生病院として「健康相談コーナー」を出展しました。

内容は、身体計測に血圧測定、血管年齢測定や骨密度測定、さらに保健師・管理栄養士による健康相談などを実施しました。なかでも骨密度測定や血管年齢測定のコーナーでは、長蛇の列ができました。自身の測定値に対するコメントに一喜一憂、健康相談を受ける光景もありました。

会場のスペースの関係で、混雑がなかなか解消できず申し訳ございませんでした。2日間、30名の方が利用され、盛況のうちには終わりました。



■第1回糖尿病教室食事会



12月6日(土)、江南厚生病院の講堂において「糖尿病教室食事会」を開催しました。この

会は糖尿病治療をされている患者さんを対象に日頃の糖尿病療養の参考にしていただく為に昭和病院時代から20年以上継続開催している会です。当日は患者さん51名が参加され、野木森副院長のあいさつの後、バイキング形式の食事会を行いました。ちらし寿司、筑前煮、サラダ、フルーツなどの料理を患者さんの指示カローリに合わせ選択していただき、患者さん同士で会話をしながら和気あいあいの中ですすめられました。これからも患者さんの療養に少し



お願い

でも役立てるようこの会を継続していきたいと思えます。

最近電話のかけ間違いが多くなっています。

当院へお電話の際は電話番号をよくお確かめのうえ、くれぐれもおかけ間違いのないようお願いいたします。

江南厚生病院

TEL 0587-513333

■保険証の確認について

当院では毎月一度保険証の確認を行っています。外来受診の際は、各外来受付か新患受付へ、また、入院中は各スタッフステーションに保険証をご提示ください。なお、保険証・氏名・住所・電話番号等の変更がございましたら、新患受付か外来受付にお申し出くださるようお願いいたします。

編集後記

今回「和み」をリニューアルしました。これからもどうぞよろしくお願いたします。

江南厚生病院広報委員会

委員一同